



センター主催公開講座と出前講座

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 内田, 和浩, 谷古宇, 尚 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/10449

報告

センター主催公開講座と出前講座

1、地方自治リカレント講座「21世紀、地方主権への課題」

センター主催としては初めての公開講座として、平成13年5月12日（土）～11月10日（土）の8月を除く月1回の全6回（午後1時～2時30分、会場は旭川校会議室）開催しました。すでに過去5年間、「道北地域地方自治土曜講座」に取り組んできている同実行委員会（委員長・鈴木彰 愛別町農林課長、上川管内の自治体職員が中心）との実質的に共催という形で実施しました。また、センター主催講座は北海道全域の人々に開かれているべきとの考えから、学内の双方向テレビ会議システムを利用した札幌・岩見沢・函館・釧路での受講やビデオによる希望自治体・団体での受講を目指し、函館及び釧路校での受講が実現できました。また、桧山管内今金町からは職員研修の一環としてのビデオ受講が行われるとともに、旭川市内の市民団体によるビデオ受講もありました。受講料を支払っての受講者は60人。うち4回以上出席の修了者は47人（78%）でしたが、双方向テレビシステムやビデオでの受講者を加えると、毎回100人をはるかに越える人々が受講していたことになります。これらは、この講座の実施にあたって後援をいただいた北海道町村会及び道北地域地方自治土曜講座実行委員会の皆様のご尽力の成果と思います。

各回の講義内容及び講師は、以下のとおりです。

- | | | | |
|----|--------|------------------|--|
| 1、 | 5月12日 | 「地方分権、その後」 | (元鷹栖町長 小林勝彦さん) |
| 2、 | 6月9日 | 「自治体財政の課題」 | (北海道大学大学院法学研究科教授 宮脇 淳さん) |
| 3、 | 7月7日 | 「アメリカ廃棄物行政事情」 | (札幌大学法学部教授 福士 明さん) |
| 4、 | 9月1日 | 「市町村における政策評価」 | (白老町企画課主幹 岩城達巳さん) |
| 5、 | 10月6日 | 「地方主権時代の高齢者保健福祉」 | (北海道教育大学旭川校教授 岩崎 清さん) |
| 6、 | 11月10日 | 「自治体とIT革命」 | (北海道教育大学旭川校教授・北海道教育大学生涯学習教育研究センター長 山形積治さん) |

毎回、地方自治の最新情報を含む新鮮な課題が各講師から語られ、参加者からも自らの現場での実態に即した質問が積極的に行われました。双方向テレビでの釧路・函館と講師とのやりとりも毎回行われ、とても有意義な講座になったと思います。(内田和浩)

2、美術土曜講座「地域と美術」

センター主催2回目の公開講座として、平成13年11月17日（土）、12月1日（土）、8日（土）の3日間にわたり全5講（1日2講、最終日は1講のみ）開催しました。

これまで野外彫刻の設置や街並み保存などの運動を通して、地域の再評価・見直しが図られてきました。また美術館の活動が、美術による地域の活性化に貢献することが期待されています。しかしながら「美術」の概念自体が大きく変貌している現在にあつて、従来の美術的政策は新味に乏しく、一般には効果の薄いものとも感じられます。そこで本講座では、現代の美術を地域性の中で捉え直すことによって、その果たしうる役割を新たに確認し、まちづくり、風土、地域と美術との結び付きを考えることを目的としました。講師には道内外の美術館学芸員を講師にお迎えして、各回様々な側面から幅広く美術を語る機会を持つことができました。

各回の講義題目および講師は、以下のとおりです。

1、 11月17日	第1講 「芸術の場所－美術の目で見た地域」 谷古宇尚（北海道教育大学生涯学習教育研究センター）
	第2講 「個人美術館と地域」 苫名真（北海道立三岸好太郎美術館主任学芸員）
2、 12月1日	第3講 「風土と美術」 新明英仁（北海道立旭川美術館学芸課長）
	第4講 「彫刻と旭川」 斉藤傑（旭川市彫刻美術館彫刻専門員）
3、 12月8日	第5講 「青森芸術日記」 立木祥一郎（青森県美術館整備・芸術パーク構想推進室）

大学と関係諸機関との連携を模索するため、北海道立旭川美術館の御協力を頂き、2日目と3日目は同美術館の講堂を会場とさせて頂きました（1日目は北海道教育大学旭川校）。受講者が少なかったことも含め、今後の課題にしたいと考えています。（谷古宇尚）

3、出前講座「地域の学校と生涯学習」（宗谷管内歌登町）

この出前講座は、宗谷管内の自治体の社会教育主事の方々や社会教育主事を経験された小中学校の校長・教頭等によって構成されている宗谷管内生涯学習研究会（会長 菊池正利稚内市立樺岡小中学校長）との共催で、平成13年9月6日（木）に歌登町町民会館を会場に開催（午後1時45分～5時）しました。北海道教育庁宗谷教育局及び宗谷管内校長会の後援も受け、「宗谷管内における生涯学習の普及・振興を図るため、学校教育関係者と社会教育関係者、生涯学習に関心のある者が一堂に会し、連携のあり方やそれぞれの取組みについての交流を行うとともに、今後の実践研究の方策を協議する。今年度は、北海道教育大学生涯学習教育研究センター「出前講座」と共同開催し、生涯学習の推進、特に学社融合の推進方策の取組について考える機会とする。」として実施されました。歌登町の一般市民を含む学校教育・社会教育関係者約80人が参加しました。プログラムは、以下のとおりです。

テーマ 「地域の学校と生涯学習」

(1) 講義

第1講 「総合的学習の時間と学社融合の可能性」

講師 北海道教育大学旭川校助教授 須田康之

第2講 「生涯学習の推進と学社融合の意義」

講師 北海道教育大学生涯学習研究センター助教授 内田和浩

(2) 事例発表

① 『子ども芸能フェスティバル』 歌登小学校教諭 大島 朗

② 『利尻町学社連携推進会議』 利尻町教育委員会社会教育主事 木下裕二

(3) 意見交換

コーディネーター 北海道教育大学生涯学習研究センター助教授 内田和浩

意見交換では、学校教育・社会教育のそれぞれの立場から「学社連携」「学社融合」へ向けてのさまざまな困難とそれらを克服していくための取り組みや意識改革などが提起され、講義のみでは深められなかった共通認識を確認することができ、大変有意義な講座となったと思います。

(内田和浩)

4. 出前講座「今、考えよう、子どもたちの笑顔、豊かな人間性を育てる地域の力を」

(釧路管内釧路町)

子どもたちをめぐる様々な問題は、その解決を単に家庭や学校だけに委ねるのではなく、地域全体で取り組んで行かなければなりません。来年度、学校の完全週5日制の実施や「総合的な学習の時間」の導入により、子どもたちと地域との関わりが今以上に多くなります。そこで私たちも、子どもたちの日常生活に暖かく、そして注意深いまなざしを向けながら、「地域のおじさん、おばさん」としての力を高めてゆく必要があるでしょう。そこでこの出前講座では、子どもたちの豊かな人間形成を、地域社会の支援・子育て、また地域と美術との関わりに視点を置きながら考えてみました。

共催の釧路町教育委員会に会場・広報などのご準備を頂き、釧路町河畔の遠矢コミュニティーセンターを会場として、平成13年11月10日(土)13時～15時に開かれました。参加者は町民の方々、約30名でした。

プログラムと主な内容は、以下のとおりです。

第1講演「子どもの美術と生活」～子育ての視点から

□ 子どもが日常的に美術にどう関わっているか

□ 美術と子どもの学習意欲の関わり ほか

講師：北海道教育大学生涯学習教育研究センター釧路分室長 福井 凱 将

第2講演「子どもの生活環境への理解」～地域社会の視点から

□ 子ども自らが人間形成をするために、地域社会はどんな支援ができるのか ほか

講師：北海道教育大学生涯学習教育研究センター助教授 谷古宇 尚

今回は釧路町に突然お邪魔した形になりましたが、これからは生涯学習センターの事業と、各自治体やグループが継続的に進めている生涯学習に対する取り組みとが、いかに効果的にかみ合っただけかを考える必要があります。また釧路管内で開催とのことで、釧路校から一人出講しました。道内に5つのサテライトを持つセンターが、広い北海道をカバーするためにうまく機能しなければならないでしょう。

(谷古宇尚)